

## A43a 西はりま天文台公園における観測研究と市民参加

石田俊人 (兵庫県立西はりま天文台公園 / 兵庫県立大学)

兵庫県立西はりま天文台公園は公開天文台の一つであり、平成2年に60cm望遠鏡を主力望遠鏡として設置され、その後平成16年に2m望遠鏡が増設された。また、平成16年には兵庫県立大学自然・環境科学研究所宇宙天文系が設置され、一部職員は県立大学と天文台公園の職員を兼務している。

当天文台公園は、そもそも公開天文台として設置されたことから、毎日の観望会の時間帯が決まっているなど、研究機関の望遠鏡にはない制約が存在する。そういった中でも観測研究を可能とするため、観望会終了後短い準備時間で観測を可能とするための工夫が2m望遠鏡システムには加えられている。こういった2m望遠鏡システムの概要と特徴、運用状況、研究成果の例などを紹介する。

さらに、公開施設として、市民が参加することが可能な形で研究を行う試みを始めており、これは「NHAO@site (アットサイト) Program」と称している。昨年度までは試行段階として、内部の研究員が提案したテーマで実施してきたが、今年度より外部からの研究テーマの提案を受け入れ始めている。このNHAO@site Programとしてこれまでに行われている観測テーマ、参加した市民からの反応などについて紹介する。

また、60cm望遠鏡の利用状況や、近隣大学の研究者などの県立大学の客員としての受け入れなどについても紹介する。